

事例名											
(1)和楽器・篠笛 (2)リズム (3)題材ごとの振り返り											
校種・学年	高等学校・1～3年										
教科・科目・単元・題材	芸術科・音楽・器楽他										
学校名〈任意〉	—	事例報告者氏名〈任意〉	—								
機能名(アプリ名)	・カメラ機能・・・(1):第1～2学年 ・WEB サイト(SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC)「りずむん」・・・(2) 全学年 ・提出機能(ロイノート)・・・(3) 第1学年										
ICT 活用のポイント											
認識しづらいものや目視しにくいものを可視化し、共有し、身体の使い方などを意識させたり自覚させたりするために ICT を活用している。また、限りある授業時間内で声掛けによる指導・支援がより有用なものとなるよう、事前に生徒の課題点等を把握するためにICTを活用している。											
活用場面											
<b>篠 笛</b> 篠笛を奏する際の口元を撮り、理想の口の形と比較する。気づきをもとに実践し、実践の結果を言語化して記録する。カメラ機能により口元を映しながら演奏練習に取り組む。		<table border="1"> <thead> <tr> <th>お手本</th> <th>自分の写真</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">           【気づいたこと】            理想の口の形より全体的に隙間が開いていて横長になっているけど、理想の唇は隙間が縦長に開いている         </td> </tr> <tr> <td colspan="2">           【変化】            音が弱かったのがはっきり音が鳴るようになった。         </td> </tr> </tbody> </table>		お手本	自分の写真			【気づいたこと】 理想の口の形より全体的に隙間が開いていて横長になっているけど、理想の唇は隙間が縦長に開いている		【変化】 音が弱かったのがはっきり音が鳴るようになった。	
お手本	自分の写真										
											
【気づいたこと】 理想の口の形より全体的に隙間が開いていて横長になっているけど、理想の唇は隙間が縦長に開いている											
【変化】 音が弱かったのがはっきり音が鳴るようになった。											
<b>リ ズ ム</b> インターネット(Wi-Fi)に接続し、各自の能力に応じた「りずむん」の課題に段階的に取り組む。											
<b>振り返り</b> 生徒は学習した内容や自分自身の変容や成長について、伝わりやすい適切な表現で記録し、まとめることにより成果や課題を整理・自覚する。指導者は活動の様子と照らし合わせて確認し、個別にコメントやスタンプを記して返却し、次時の指導・支援につなげる。また、参考にしてほしい内容を適宜教室前のホワイトボードに表示し、全員で共有する。											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>今日の練習を振り返って R7. 10 月 31 日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>           篠笛は今まで笛を床と平行になるように持っていたけど、右側を少し下に向けてることを意識すると音がやすくなった。また、低い音を出すときは低い声を出すときと同じ感覚で吹くと上手くできた。また、安定して吹けないので、引き続きこれらを意識していきたい。         </td> </tr> <tr> <td>           三線は弦を押さえるときに3本とも押さえていたけど、1本ずつ押さえることで音の響きが良くなった。押さえる位置もだんだん覚えてきたので、歌う速さで弾けるように楽譜を見なくてもいらいもって弦を押さえる位置を把握していきたい。         </td> </tr> </tbody> </table>		今日の練習を振り返って R7. 10 月 31 日	篠笛は今まで笛を床と平行になるように持っていたけど、右側を少し下に向けてることを意識すると音がやすくなった。また、低い音を出すときは低い声を出すときと同じ感覚で吹くと上手くできた。また、安定して吹けないので、引き続きこれらを意識していきたい。	三線は弦を押さえるときに3本とも押さえていたけど、1本ずつ押さえることで音の響きが良くなった。押さえる位置もだんだん覚えてきたので、歌う速さで弾けるように楽譜を見なくてもいらいもって弦を押さえる位置を把握していきたい。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実践試験に向けて R7. 11 月 19 日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>           まだ左手を気にして見てしまう時があるので、できるだけ左手を見ずに歌と右手に注目したい。「聞きたくて」のところは三線でひくところと歌うところのスピードが異なるのでそこに注意したい         </td> </tr> <tr> <td>           実践試験を終えて            全体的に相手とのペースも合わせることができたし、自分的にはミスは少なくすることができたんじゃないかと思った。「実践試験に向けて」で書いた「聞きたくて」の歌のリズムと三線のリズムで分けるということができた。楽器は弾けたら楽しいことに気がついた。         </td> </tr> </tbody> </table>		実践試験に向けて R7. 11 月 19 日	まだ左手を気にして見てしまう時があるので、できるだけ左手を見ずに歌と右手に注目したい。「聞きたくて」のところは三線でひくところと歌うところのスピードが異なるのでそこに注意したい	実践試験を終えて 全体的に相手とのペースも合わせることができたし、自分的にはミスは少なくすることができたんじゃないかと思った。「実践試験に向けて」で書いた「聞きたくて」の歌のリズムと三線のリズムで分けるということができた。楽器は弾けたら楽しいことに気がついた。		
今日の練習を振り返って R7. 10 月 31 日											
篠笛は今まで笛を床と平行になるように持っていたけど、右側を少し下に向けてることを意識すると音がやすくなった。また、低い音を出すときは低い声を出すときと同じ感覚で吹くと上手くできた。また、安定して吹けないので、引き続きこれらを意識していきたい。											
三線は弦を押さえるときに3本とも押さえていたけど、1本ずつ押さえることで音の響きが良くなった。押さえる位置もだんだん覚えてきたので、歌う速さで弾けるように楽譜を見なくてもいらいもって弦を押さえる位置を把握していきたい。											
実践試験に向けて R7. 11 月 19 日											
まだ左手を気にして見てしまう時があるので、できるだけ左手を見ずに歌と右手に注目したい。「聞きたくて」のところは三線でひくところと歌うところのスピードが異なるのでそこに注意したい											
実践試験を終えて 全体的に相手とのペースも合わせることができたし、自分的にはミスは少なくすることができたんじゃないかと思った。「実践試験に向けて」で書いた「聞きたくて」の歌のリズムと三線のリズムで分けるということができた。楽器は弾けたら楽しいことに気がついた。											
授業者のコメント・児童生徒の主な反応等											
ICT を活用することで生徒は客観視や自分自身の変容の実感から、自身の課題や成長を自覚しやすくなった。振り返りとして生徒が記録した内容を指導者が事前に把握することにより、授業中の支援・指導・助言の効率化を図りつつ、より有用な支援・指導につなげることができた。また、授業中に受けた助言等と自身の気づきを振り返りながら更により良いものに近づけるための具体策を自ら見出す生徒も増えてきた。リズムなど高校入学時には既に個人差が生じていたり、苦手意識のある分野であっても ICT を活用して段階的に取り組ませることにより、音楽表現活動に対する意欲を高め、学びを深め、技能を向上させたり定着させたりすることができた。											